

**平成 30 年度（2018）アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書**

1 めざす学校像

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す  
～2030年の社会に向け SDGs（持続可能な開発目標）を達成するための  
「21世紀型教育」を本格的始動

2 中期的目標

1. 入学者の確保、中学校 60 名以上、高等学校 100 名以上を目標とした広報戦略の強化
2. 教育力の向上 21 世紀型教育の充実
3. 共学化、新コース制に見合った組織と施設設備の充実

**【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会・第三者評価委員会からの意見】**

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○保護者 保護者アンケートは中1～高3は配布12月15日、回収12月22日に実施した。</p> <p>改革1年目を終えて、改革年度の入学者の保護者には高評価を得ているが、受験期に当たる保護者にとっては不安を感じていることも多いという事が分かった。その点から、「大学受験対応」においては満足度が低かった。しかし、全学年において、「教育理念教育」「教育理念周知」においては大変高い評価を得ており、それに伴い「学年クラス運営」が円滑に行われていることにも繋がっている。そこから、改革学年は本校への入学を親戚・知人に勧めるといった評価は半数以上を占めている。</p>	<p>(第1回：平成29年5月10日(水)) コース選択が2つになり、男女共学になったことから、この改革による教育理念に協力ができることがあれば協力したい。評価委員会は評価のみにとどまらず、改革のPDCAに協力したい。</p> <p>(第2回：平成29年6月21日(水)) 改革の中でも保護者の大半は我が子の「考えるキミ」への進化を望み、これを基に大学進学を望んでいる。改革のより良い流れの波及は大歓迎であり、生徒の力を最大限発揮するように指導して欲しい。</p> <p>(第3回：平成29年9月13日(水)) 改革に伴い男子トイレの新設、それに伴う女子トイレの充実、男子・女子それぞれの更衣室の新設、PBL型授業実施のための新教室の設置、ICT教育環境充実のために全教室電子黒板の設置、LAN環境の整備等の施設設備の充実に関して、どう展開されているか？説明の要望があり、学校側から詳細の説明があった。概ね、フル活動されているとのことであった。</p>

<p>○教員</p> <p>このアンケート結果より、教職員一同「わかりやすい授業」を生徒に提供していることがわかり、「学習習慣指導」の徹底にも努めていることが分かった。また、「問題対応・教員相談」も充実していることから教員の団結力の強さもうかがえる。教職員が同じ目標に向いていることは、新教育改革の成功のカギである。また、教育力向上のための分掌・学年・教科を超えた連携、および、「家庭との連携」も行き届いていると評価が高かった。昨年度の課題であった新教育課程の具体的な研修・課題検討については、円滑に進んできていると感じている教員が大半になってきていることもアンケート結果より分かった。今後、具体的な取組の部分に注力し、さらに新教育改革の実現を教職員一枚岩となって丁寧に進めていく必要がある。</p>	<p>改革の先にある「大学入試改革」、「高大接続」等の情報を共有できる機会を生徒自身はもちろん保護者自身、評価委員にも学ぶ機会を設けるよう、要望が出された。</p> <p>教育における生徒のモチベーションの向上を図るには学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」「世界の平和に貢献できる人の育成」に基づき「考えるキミ」すなわち「世界の平和に貢献できる人財の育成=21世紀の社会で活躍できる人財」というメッセージを委員会としては共有していきたい。</p> <p>改革、改革といっても学校教育の中では「授業」が最も重要視されるべきものである。これから、保護者アンケート、教員アンケートが実施されると思うが、特に「授業満足度」の分析を中心に教員側で共有していく必要がある。それとともに教員の授業に対する思いを生徒に伝えることによって生徒の意識にも変化を求めるべきである。「考えるキミ」の醸成論は時代の趨勢であるが、それを下支えする「知識」の育成も大切である。</p>
--	---

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 入学者の確保 広報戦略の強化	(1) 中学校 60 名 高等学校 100 名 を目標とした広報戦略の強化	1) 中高で強化クラブとして男子サッカー部を運営  2) Web ページによる情報発信力の強化  3) 校内入試イベントの充実	ア) クラブチームへのスカウティングに加え、公開の体験会を設定し、広くよびかけた。  ア) 紙媒体によるイベント告知から Web ページへ誘導する流れを確立する  イ) アクセス解析の実施  ア) 回数・内容について、昨年度改善したものを今年度も継続する	ア) 結果：○ 体験会参加者も増加し、中学サッカー部が秋季大会で大阪府ベスト4の成績を残し、校名宣揚に大きく貢献した。  ア) 結果：○ 各イベントごとのチラシを作成し Web ページへ誘導した  イ) 結果：○ 業者（ハル）にアクセス解析を依頼し、分析を共有する会議を定期的に持った  ア) 結果：△ 内容について部会で検討し、昨年度の良い点は継続し、改善すべきところは新たな内容に変更した ただ時期によっては小中学校行事と重なり集客が伸びなかったものもあり、次年度に向

		<p>4) 入試イベント個別のちらしを作成する</p> <p>5) 公立中訪問（年 4 回）に全教員で対応する</p> <p>6) 入試制度の改善</p>	<p>イ) 各イベントのプログラムに制服試着を実施する</p> <p>ア) イベントごとに個別のチラシを作成し、都度公立中学校に配布する</p> <p>ア) 6 月、9 月、10 月、11 月に公立中訪問訪問を全教員で行う</p> <p>ア) 高校成績基準の改訂</p> <p>イ) 英語外部資格検定試験利用を導入</p> <p>ウ) 中学入試結果</p> <p>エ) 高校入試結果</p>	<p>けて時期の検討は必要。</p> <p>イ) 結果：○ 制服屋の協力を得て実施した</p> <p>ア) 結果：○ イベントごとに個別のチラシを作成し、都度公立中訪問で近隣中学校に配布した</p> <p>ア) 結果：○ 年 4 回の訪問だけでなく、8 月に郵送によるチラシ配布を行い集客につなげた</p> <p>ア) 結果：○ 進路実績の向上を目指し基準を上げたが、ほぼ昨年度並みの生徒を集めることができた</p> <p>イ) 結果：△ 英語が得意な生徒に有利との印象を持たせたが、浸透が図れず、菅さん割合についても再検討が必要である。</p> <p>ウ) 結果：△ 中学入学者は 56 名（外部 38 名＋内部 18/32 名）であり、一般入試入学者は微増であった。しかし内部進学者の人数は現であり、帰国生入試受験者は 0 であった。</p> <p>エ) 結果：○ 高校入学者は 124 名（外部 89 名＋内部 35/41 名）であり、専願者だけで募集人員を上回った。</p>
2. 教育力の向上	<p>(1) 21 世紀型教育の充実に関する取り組み</p>	<p>1) 英語イマージョン教育の充実を行う</p> <p>2) PBL 教育の推進</p> <p>3) ICT 教育の充実</p>	<p>ア) ネイティブ教員の人員増</p> <p>イ) オリジナル教材の製作</p> <p>ア) コアメンバーを中心に、全教科で実践する</p> <p>ア) 新 1 年生に教育機器として iPad を導入し、授業での活用を目指す</p>	<p>ア) 結果：○ 数学 2 名、理科 1 名、英語 3 名の専任ネイティブ教員と 1 名の非常勤ネイティブ教員の体制となった。</p> <p>イ) 結果：○ 高校数学・理科については日本人教員とネイティブ教員の協力でオリジナル教材を制作した。今後学年進行で整備する予定である。</p> <p>ア) 結果：△ 外部有識者と一緒にコアメンバーが公開授業を行い、その成果をもって全体の教員研修で共有した。理解や普及は確実に進みつつあるが、内容や頻度において更なる進化が必要と思われる</p> <p>ア) 結果：△ 特別教室への LAN 環境整備やサーバ構築など環境整備は進んだ。ICT を使った授業の研修も行き着実に普及しつつあるが、生徒個別の端末の活用について更なる進化が必要と思われる。</p>

(2) その他の取り組み	1) 授業の充実	ア) 授業力向上のための研修実施	ア) 結果：△ 夏季研修など長期休暇中に手申しての教員研修を行い、また個別に外部研修に参加する者も増えた。課題としては日常的に教科会で授業の改善について話し合う時間を設定できるように働きかけをした。
		イ) 授業時間の45分から50分への延長	イ) 結果：○ スムーズに移行に成功し、主要教科の年間の総授業時間の増加につながった。
		ウ) 教育課程の継続した検討と適宜修正	ウ) 結果：○ 教育課程委員会・教務部が連携し、大学入試や生徒の進路希望の状況に沿って、小さな改善を積み重ねてきた。また時間数だけでなく、より生徒の意欲や力をつけるための新規行事も複数提案された。
	2) 国際交流プログラムの充実	ア) 高校イングリッシュコースでカナダターム留学を開始	ア) 結果：○ 高校でのカナダターム留学に加え、中学3年生でのニュージーランドターム留学も同時に整備し、実行することができた。
		イ) 長期留学生の受け入れ	イ) 結果：○ 高校2年AEコースのクラスに長期留学の生徒1名を受け入れた。次年度も継続して1名の受け入れを予定し、今後も積極的に受け入れを行う予定である。
	3) 進路指導の充実	ア) 関西学院大学との教育連携強化	ア) 結果：○ 高校1年・2年での行事で、ほぼ全員が関西学院大学を訪問し、連携校としての意識付けを行っている。1年生・2年生では早くから開学への推薦を意識し、成績向上に取り組む生徒が増加した
イ) 海外大学協定校推薦入学生との導入		イ) 結果：○ 業者と連携し、海外大学への協定校推薦制度を導入し、海外大学志望者へのニーズにこたえた。	

<p>3 共学化・新コース制に見合った組織と施設設備の充実</p>	<p>(1) 人材確保、組織・体制の見直し</p>	<p>1) イングリッシュコースのクラスに副担任としてネイティブ教員を配置</p> <p>2) クラス増に伴う教員の増員</p> <p>3) 部員増に伴うサッカー部のスタッフ増員</p> <p>4) 2019年度に向けた一部組織改編の決定。</p>	<p>ア) AEコースのクラスを単独クラスとし、コースの性格をより明確化する</p> <p>イ) ネイティブ教員をAEコースのクラスで副担任として配置した</p> <p>ア) クラス増に伴い専任教員の募集を行う</p> <p>ア) 委託しているT社と法人事務局で適切な契約を結ぶ</p> <p>ア) コース主任の廃止と、それに代わるイマージョン部、カリキュラムマネジメント部の設置を検討する</p>	<p>ア) 結果：○ AEコースのクラスを単独とし、朝礼やホームルームにおいてもネイティブ教員の副担任と一緒に英語で行うなど、より英語に触れる機会を増やした。教室内の掲示物もすべて英語とし、環境も整備した。</p> <p>イ) 結果：○ 朝礼・ホームルーム・学年行事と一緒に参加することで、ネイティブ教員と英語で交流する機会を増やすことができた</p> <p>ア) 結果：× 各教科で選考まで行ったが、理事会判断により採用が中断した。次年度もクラス増が見込まれる中、次年度の採用を必要である</p> <p>ア) 結果：○ 部員増加によってスタッフは増加した。</p> <p>ア) 結果：○ 2019年度よりコース主任の廃止と、それに代わるイマージョン部、カリキュラムマネジメント部の設置を決定した</p>
	<p>(2) 施設設備の整備</p>	<p>1) クラス増に伴うホームルーム教室の増設と選択授業を行う教室の確保</p> <p>2) 上記に伴う学内LANや特別教室の整備</p> <p>3) 生徒数増に伴う自転車置き場の整備</p>	<p>ア) クラス増に見合う普通教室を整備する</p> <p>ア) 普通教室・特別教室でのLAN環境整備</p> <p>ア) 適切な自転車置き場の候補地の検討と整備の実施</p>	<p>ア) 結果：○ 講義室を普通教室2教室として整備し、不足する特別教室の代替として、北館403、多目的室を授業のできる環境に整備した。場所的に増設した普通教室が音楽室の前であり、防音面など課題を残した</p> <p>ア) 結果：○ 普通教室にはプロジェクター、無線LANを整備した。また特別教室・講堂にも追加で整備し、授業で活用できる環境を整えた。</p> <p>ア) 結果：△ 聖堂横のスペースを候補地とし置き場を整備した。しかし近隣生徒の増加に伴い、現状ではぼいっばいの状況で、さらなる候補地・拡張が必要である。</p>